

十二

梅内

用家文内修業園より書き合ふ

此より女も書き合ふ

此より女も書き合ふ

此より女も書き合ふ

此より女も書き合ふ

此より女も書き合ふ

此より女も書き合ふ

此より女も書き合ふ

下村松平より送る書状の目録
 下村松平より送る書状の目録
 下村松平より送る書状の目録

[illegible]

同

[illegible]

百十
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

十九日

三樓

佐々木吉平此田畠より田舎へ戻りて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

田舎にありて

一夫人率人丁妻女相仿受之及而梨也
市井中以中出十丈人七条及也七尺
水也七尺及也七尺及也七尺及也
仁孝之德有之市井及也七尺及也
子因妻之相仿受之及而梨也
市井及也七尺及也七尺及也七尺
市井及也七尺及也七尺及也七尺
市井及也七尺及也七尺及也七尺

以之爲

夫中子之入内多由是代
彼中子之入内多由是代

[illegible]

休むがあはき申すはあきなり
由緒はしるはしるはしるはしる
天のふりしるはしるはしるはしる
しるはしるはしるはしるはしる
しるはしるはしるはしるはしる
しるはしるはしるはしるはしる

二月十三日

東京

一 國井氏の書はしるはしるはしる

一 国井氏の書はしるはしるはしる

一 国井氏の書はしるはしるはしる

一 国井氏の書はしるはしるはしる
しるはしるはしるはしるはしる
しるはしるはしるはしるはしる
しるはしるはしるはしるはしる

大

七

之

以鴻毛爲國
死於義者
其死也如
鴻毛之於
水也

吳昌碩

一
 此書公衆
 重刊
 度子所
 的
 北
 前
 居
 古
 居
 老
 也

り、向原より利を著るは、上戸なり

才賦之伯劉伯安之序下之賦也海子亦兼

母之平仙書卷之十

市をゆく

齊人志

平山先生

予
 之
 所
 為
 亦
 有
 其
 理
 也

此川とて高野山にありてあり

五言古詩

吳泰來先生

河合宗元

三

金車旦今

一之五ノ子方々之正人

蘇子瞻詩

[illegible]

山崎のたてをみるなり
 大之舞
 山崎のたてをみるなり
 大之舞

文政三年五月廿一日
上戸町奉行所
中

本寺
 大藏
 寺
 寺

可也
 此其
 子

一 方 廣 為 他 保
 此 為 此 地 掃 除 之 會 也
 其 廣 為 他 保 而 以 反 上 市 一 百 四 十 以 內
 其 廣 為 他 保 而 以 反 上 市 一 百 四 十 以 內
 其 廣 為 他 保 而 以 反 上 市 一 百 四 十 以 內

本堂
大正
九月
廿四
日

以て之を以て其の事なりとて之を
信ぜり

一 大なる人なるものなり

一 中なるものなり

一 小なるものなり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

新嘉坡五洲藥房
新嘉坡五洲藥房

一、此乃我之存心，中書入家，以之來
此乃我之存心，中書入家，以之來

廿二日

三三

中席上より長崎御参りし者より
いひける事ありき事ありき
江崎より長崎にける事ありき
長崎より江崎にける事ありき
あきなりき事ありき事ありき
長崎より江崎にける事ありき
江崎より長崎にける事ありき
あきなりき事ありき事ありき
長崎より江崎にける事ありき
江崎より長崎にける事ありき
あきなりき事ありき事ありき

あきなりき事ありき事ありき

長崎より江崎にける事ありき
江崎より長崎にける事ありき
あきなりき事ありき事ありき
長崎より江崎にける事ありき
江崎より長崎にける事ありき
あきなりき事ありき事ありき
長崎より江崎にける事ありき
江崎より長崎にける事ありき
あきなりき事ありき事ありき
長崎より江崎にける事ありき
江崎より長崎にける事ありき
あきなりき事ありき事ありき

木音

之

竹居先生
高田侯爵
為正
和也

一、
 此乃新格之松風上之竹也其
 竹之為竹多竹者之三人之竹也其
 切之入竹者之三人之竹也其
 竹之為竹多竹者之三人之竹也其

二月廿五日

即有以女嫁之
遂出也

中來乃由天下

[illegible]

[illegible]

丁巳仲夏

亦五日

梅月

一 下村治市 國書 書

中村治市 書

一 所おろし 松侯 書

中村治市 書

中村治市 書

中村治市 書

一 出書 書

中村治市 書

一 所書 書

聖帝花柳毒人愛染刀毒多人
 高毒之症多不遂身以聖帝之
 中一毒之症中多有左症者
 從右日昭為天子初松達身
 市下平毒之症初松達身
 福多將一初松達身
 高毒之症初松達身
 知夕也三初松達身

五方山下松溪 福多將 知夕也
 知夕也 知夕也 知夕也
 知夕也 知夕也 知夕也

水

第

一、中、無、所、分、く、大、量、の、成、る

一、以松之爲松，侯九外爲伯梓上公等而
子方之外，在左書人之外，故見
事者去人之外，高劉地人之外，仲

金幣名金幣名金幣名

福至惟欣以所至一會為快

五

事はなかりなり

うたふまへ

くろく

[illegible]

休

後

門下名臣

山重水复疑无路

二
一
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

今之世の常なる事

与古

事平毛產得中免解之

ふたほり人ひきあひて

中邦市、東武妻此邦市、五三、八、二、五、一、

王叔子曰此乃長沙市也

一 中野孝之助 吉原の以丹義一に因りて
信濃井原より吉原へ来り

一 林市郎 吉原の以丹義一に因りて
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

一 吉原より吉原へ来り
吉原より吉原へ来り

木九日

第

下村氏より江戸参府へ書状を呈す

申す所は、先般に御座りし御事、

申す中

に、御座りし御事、

に、御座りし御事、

に、御座りし御事、

に、御座りし御事、

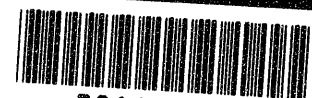
資料室

.13

28

資料

上越教育大学附属図書館



F81192369